

令和2年度 「みそのもくもく」学生の振り返り

(学びのねらいとしている保護者との関わりについて抜粋しました)

○子どもの遊びを見守っている保護者、子どもと同じように一緒に遊び、時に遊びをリードする保護者、と様々な親子の形が見てとれ、それぞれの保護者の考え方、関わり方を瞬時に読みとって、尊重しながらそれに応じた関わりが大切になると思った。

○小さなことでも子どもをしっかり見て、その様子を保護者と共有しながら時間を過ごしていくと、保護者の方から家での過ごし方や遊びの様子、どんなことに夢中になっているのか、など子どもの情報をお話してくれた。保護者から見た子どものことを聞いて嬉しかった。

○子どもの「もくもく」での姿を断定的にみることなく、多面的からの姿を捉えて関わり方を模索していきたい。私たちが今まで見られなかった姿に驚く以上に、保護者も感じることは多いと思うので、その瞬間を大切に、保護者と発見を共有し、子どもに対する見方の広がりにつなげたい。

○保護者と関わるうちに当初の「何かしてあげなくては」という思いは薄れ、保護者と共に子どもの姿や育ちを認めていくことのできる喜びを感じられるようになった。それは、親子の姿を連続的、継続的にみてこれたということであり、信頼関係の構築は長期的な関わりの中でされていくものだ実感した。直接的で長期的なこの貴重な経験を糧に、今後出会う親子と向き合い、子育てを支援する身近な存在として成長していきたい。

○保護者との関わりは、最初は緊張してしまい、なかなか話しかけることができませんでした。回を重ねるごとに子どもの姿などを一緒にお話をしたり、保護者の方から家での様子を話してくれることがとても嬉しかったです。

○子育て支援・保護者支援に対して難しいイメージを持っていたが、子育て支援は保護者と一緒にくぐっていくものという先生の言葉を聞いて、今までの活動とあわせて納得がいき、これからも保護者と「一緒に頑張る」という気持ちで関わっていきたいと思う。